

2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年2月9日

上場会社名 円谷フィールズホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2767 URL <https://www.tsuburaya-fields.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 英俊
 グループ最高経営責任者
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員 (氏名) 畑中 英昭 (TEL) 03-5784-2111
 四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績 (2023年4月1日～2023年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	123,206	37.5	12,320	30.0	13,456	38.0	9,532	68.8
2023年3月期第3四半期	89,607	23.5	9,476	300.5	9,749	276.3	5,646	215.9

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 9,413百万円(25.3%) 2023年3月期第3四半期 7,513百万円(242.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	145.70	145.31
2023年3月期第3四半期	87.19	86.46

(注) 当社は、2023年3月22日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益および潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しています。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	110,751	49,385	41.1
2023年3月期	80,893	41,817	48.4

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 45,525百万円 2023年3月期 39,120百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	40.00	40.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2024年3月期の連結業績予想 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	123,000	5.0	12,000	9.6	12,200	8.7	8,500	3.4	129.97

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

「1株当たり当期純利益」の算定上の基礎となる期中平均株式数については、2023年3月31日現在の発行済株式数(自己株式数を除く)を使用しています。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	69,400,000株	2023年3月期	69,400,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	3,972,850株	2023年3月期	4,001,382株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	65,422,381株	2023年3月期3Q	64,762,049株

(注) 当社は、2023年3月22日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、期末発行済株式数（自己株式を含む）、期末自己株式数および期中平均株式数（四半期累計）を算定しています。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（1）経営成績に関する説明」およびP.5「（2）今後の見通しについて」をご覧ください。

（決算説明資料の入手方法）

・機関投資家・アナリスト向けの説明会は当第3四半期では開催いたしません。通常説明会で配布する資料等については、決算発表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 今後の見通しについて	5
(3) 財政状態に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	13
(継続企業の前提に関する注記)	13
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	13
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	13
(セグメント情報等)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

令和6年能登半島地震で被災された方々に衷心よりお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

当第3四半期累計期間における我が国の経済は、金融緩和に向けた政策転換の予兆やエネルギー価格高騰懸念はあるものの輸出の回復等から概ね堅調な推移を見せております。またコロナが5類に移行し巣ごもりから体験・行動を伴った個人消費の活発化に加え、訪日外国人観光客の驚異的回復が重なり、円安もあり経済環境の追い風となっております。一方世界では、ハマスとイスラエルの武力衝突の拡大と紅海における船舶への攻撃による物流の停滞、長引くロシアのウクライナ侵攻など地政学的ショックにより世界経済への下振れリスクが懸念されます。

このような経済状況のなか、当社グループは強力なキャラクターによる複合コンテンツビジネスの一層の強化を進め、世界を見据えた「グローバルコンテンツ企業」としての飛躍を目指しております。(株)円谷プロダクションのオフィシャルショップには、日本限定販売の「ウルトラマングッズ」を求めて世界各国のファンの方々が大勢来店しております。映画『シン・ウルトラマン』公開効果などによる世代や地域、民族を越えた人気拡大により国内外でのイベントや他社とのコラボレーション商品の一層の拡充など売上大きく貢献しております。キャラクターの魅力を開拓しコンテンツ&デジタルビジネスを展開することで、当社グループの理念である「すべての人に最高の余暇を」を実現させるべく、順調な滑り出しを見せております。

当第3四半期累計期間の連結業績は売上高123,206百万円(前年同期比37.5%増)、営業利益12,320百万円(同30.0%増)、経常利益13,456百万円(同38.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益9,532百万円(同68.8%増)となりました。

各セグメントの概況は、以下の通りです。

コンテンツ&デジタル事業セグメント

当第3四半期累計期間の売上高は前年同期比7.5%の増収となりました。

2022年5月に公開した映画『シン・ウルトラマン』のヒットにより、新たなファンの拡大につながり、親子3世代へのファンの拡大に寄与しています。また、2023年7月に放送を開始したテレビ番組『ウルトラマンブレーザー』は、世界6ヵ国・地域で現地語吹替版、YouTubeにおいて13カ国語による字幕、吹替版のサイマル配信を実施することで、世界レベルでの新たなウルトラマンファンの獲得につながっております。それがきっかけとなり、従来の映像作品の視聴にも結びつきました。結果としてオフィシャルグッズの販売や他社とのライセンス商品の拡充などにつながり購買意欲を一層掻き立てております。

映像作品による認知拡大や好感度の向上により、中国では4ヵ所のテーマパークに常設ステージを備えたウルトラマンエリアが開設され、ファン拡大の起爆剤となっております。さらに国内外でも積極的にイベントが開催され多くの方にご来場いただいた結果、映像・イベント事業は増収となるとともに、ファン層の拡大に合わせて拡充した商品カテゴリーでのウルトラマングッズの販売も好調でした。

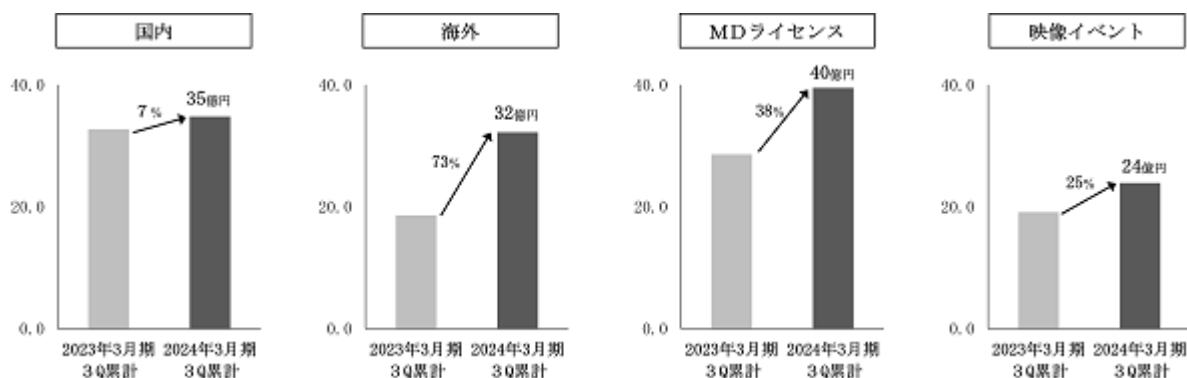
カードゲームは、現在、中国においてコレクションニーズ主体の商品が人気であり、このカードゲームのファン層をより幅広い年齢層まで広げ、グローバルに拡大するために、世界大会も視野に入れたゲーム性の高いトレーディングカードゲームを今夏より全世界に向けて販売する旨を発表致しました。この動きに伴い、現在販売されているカードゲームでは在庫調整の動きも見られました。

また、Netflixとの共同制作による長編CGアニメーション映画『ウルトラマン：ライジング』は本年全世界に配信される予定です。作品に合わせた様々な商品展開に向けパートナー企業と共に準備を進めております。

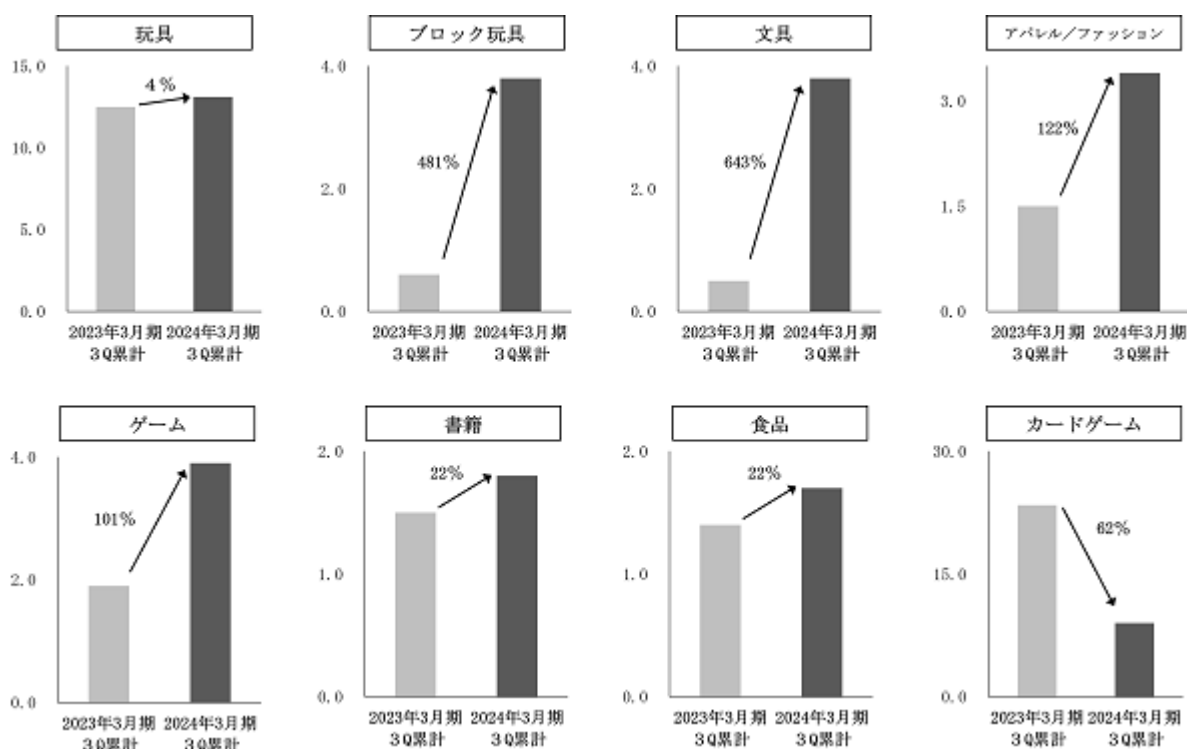
(単位：億円)

国内/海外MDライセンス (除カードゲーム) 収入

事業別 (グローバル・除カードゲーム) 収入



主要商品カテゴリー別 (グローバル) 収入



国内/海外MDライセンス (除カードゲーム) 収入

主要商品カテゴリー別 (グローバル) 収入

	2024年3月期3Q累計	増減率
国内	35億円	+7%
海外	32億円	+73%

	増減率
玩具	+4%
ブロック玩具	+481%
文具	+643%
アパレル/ファッション	+122%
ゲーム	+101%
書籍	+22%
食品	+22%
カードゲーム	-62%

事業別 (グローバル・除カードゲーム) 収入

	2024年3月期3Q累計	増減率
MDライセンス	40億円	+38%
映像イベント	24億円	+25%

※「玩具」カテゴリーは「ブロック玩具」および「カードゲーム」を除いております。

最先端のCG映像制作技術を有する(株)デジタル・フロンティアは、Netflix、大型アニメ映画やゲーム案件の順調な受注に加え、実写と見分けがつかないほど精工に作られた3DCGモデル「デジタル・ヒューマン」技術を活用した新規領域での取り組みを進めております。1月には、(株)ヤクルト本社の商品「Yakult(ヤクルト)1000」のテレビCMにおいて、同社が再現した「坂本龍馬」の3DCGモデルが起用されております。今後CM動画や映画など様々なカテゴリでの活用が期待されております。

以上の結果、コンテンツ&デジタル事業セグメントの当第3四半期累計期間の業績は、売上高11,466百万円(前年同期比7.5%増)、今後の成長投資を積極的に行った結果、営業利益は3,000百万円(同21.2%減)となりました。

PS事業セグメント

当第3四半期累計期間におけるパチンコ・パチスロ業界では、パチスロ市場はスマートパチスロ機で継続してヒット機種が登場し好調な稼働を維持しており良好な状況が続いております。これに伴いパラーの売上も順調に回復しております。

一方、パチンコ市場は、スマートパチンコ機において複数のヒット機種が登場しているものの、スマート機へのシフト本格化には至らず、稼働を牽引する新規タイトルが乏しいことから、パチスロ市場との比較ではやや低調な推移となっております。このような環境の中、2023年12月に発売した『ぱちんこ シン・エヴァンゲリオン』(販売台数6.1万台)は好評で、2021年12月に販売した『P 新世紀エヴァンゲリオン ～未来への咆哮～』と合わせ「エヴァンゲリオン」シリーズの稼働シェア及び設置シェアは第一位(2023年12月末時点)と、ユーザーに愛されるシリーズに育っております。

引き続き自社が保有するキャラクターの魅力を引き出す製品の開発を進めることで、さらなるファンの獲得と拡大が見込まれます。

当第3四半期の販売実績は下表の通りです。

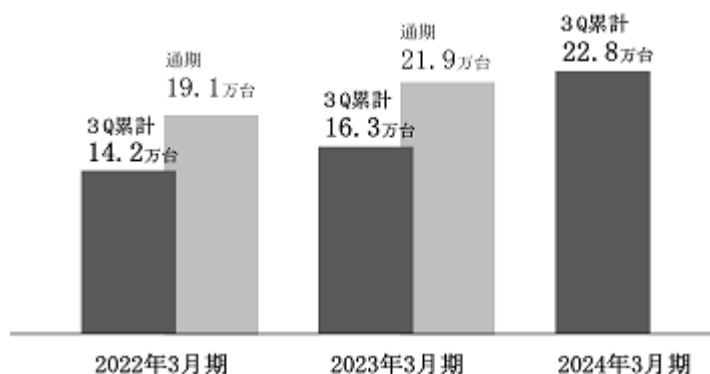
[PS事業セグメントの遊技機販売台数]

	2022年4月-12月 (前第3四半期累計期間)	2023年4月-12月 (当第3四半期累計期間)	増減
パチンコ	122,565台	162,089台	+32.2%
パチスロ	40,462台	66,392台	+64.1%
合計	163,027台	228,481台	+40.1%

[2024年3月期第3四半期までの主な販売タイトル]

区分	販売時期	納品月	主な販売タイトル (※P Bはプライベートブランド)	スマート遊技機	計上台数 (万台)	
パチンコ	第1四半期	5月	P コードギアス 反逆のルルーシュ Rebellion to Re;surrection		2.0	
	第2四半期	9月	P 百花繚乱		1.0	
	第3四半期	11月	ぱちんこ 水戸黄門 超極上		0.5	
		12月	ぱちんこ シン・エヴァンゲリオン Type レイ		4.8	
		12月	スマパチ シン・エヴァンゲリオン Type カフル	○	1.2	
	その他、シリーズ機や再販など					6.5
パチスロ	第1四半期	6月	L ベルセルク無双	○	1.4	
	第2四半期	7月	S 織田信奈の野望 全国版 (P B)		0.6	
		10月	L エヴァンゲリオン ~未来への創造~	○	1.7	
	第3四半期	11月	L ひぐらしのなく頃に 業	○	0.6	
		12月	L リングにかける1V (P B)	○	1.7	
	その他					0.3
合計						22.8

[PS事業セグメント販売台数推移]



以上の結果、P S 事業セグメントの当第3四半期累計期間の業績は売上高110,952百万円 (前年同期比42.9%増)、営業利益10,978百万円 (同81.1%増) となりました。

なお、第4四半期に向けて既存タイトルのシリーズ機等パチンコ4機種、パチスロ1機種の販売を開始しております。また、『ぱちんこ シン・エヴァンゲリオン』の稼働好調を受け、追加受注の対応も進めております。

その他事業

その他事業の当第3四半期累計期間の業績は、売上高1,204百万円、営業利益17百万円となりました。

(2) 今後の見通しについて

現時点では2024年3月期の連結業績予想に関し2023年5月15日公表の内容から変更はありません。

(注1) 本短信に記載の数値は各社・各団体の公表値または当社推計によるものです。

(注2) 本短信に記載の商品名は各社の商標または登録商標です。

(3) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、85,687百万円と前連結会計年度末比26,818百万円の増加となりました。これは主に売上債権の増加によるものです。

有形固定資産は、5,869百万円と前連結会計年度末比574百万円の増加となりました。これは主に土地の増加によるものです。

無形固定資産は、2,639百万円と前連結会計年度末比248百万円の減少となりました。これは主にのれんの減少によるものです。

投資その他の資産は、16,555百万円と前連結会計年度末比2,713百万円の増加となりました。これは主に投資有価証券の増加によるものです。

以上の結果、資産の部は110,751百万円と前連結会計年度末比29,858百万円の増加となりました。

(負債)

流動負債は、52,467百万円と前連結会計年度末比21,978百万円の増加となりました。これは主に仕入債務の増加によるものです。

固定負債は、8,898百万円と前連結会計年度末比312百万円の増加となりました。これは主に長期借入金の増加によるものです。

以上の結果、負債の部は61,366百万円と前連結会計年度末比22,290百万円の増加となりました。

(純資産)

純資産は、49,385百万円と前連結会計年度末比7,567百万円の増加となりました。これは主に利益剰余金の増加によるものです。

(キャッシュ・フローの状況の分析)

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ9,217百万円減少し、27,280百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、874百万円（前年同期は1,068百万円の収入）となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益13,436百万円、売上債権の増加27,680百万円、仕入債務の増加25,947百万円、棚卸資産の増加4,055百万円、未収入金の増加4,800百万円、法人税等の支払額2,631百万円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は、5,678百万円（前年同期は3,050百万円の支出）となりました。これは主に持分法適用関連会社株式取得による支出3,167百万円、固定資産の取得による支出1,624百万円、投資有価証券の取得による支出421百万円、貸付けによる支出340百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、4,412百万円（前年同期は4,306百万円の支出）となりました。これは主に長期借入れによる収入2,950百万円、長期借入金の返済による支出2,836百万円、短期借入金の純減額2,549百万円、配当金の支払額1,959百万円によるものです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	36,597	27,380
受取手形、売掛金及び契約資産	10,936	38,414
電子記録債権	1,957	2,159
商品及び製品	339	425
仕掛品	1,902	4,939
原材料及び貯蔵品	1,997	2,061
商品化権	1,734	2,519
その他	3,441	7,812
貸倒引当金	△37	△25
流動資産合計	58,868	85,687
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,929	2,316
その他	3,365	3,553
有形固定資産合計	5,295	5,869
無形固定資産		
のれん	1,677	1,465
その他	1,210	1,173
無形固定資産合計	2,888	2,639
投資その他の資産		
投資有価証券	7,959	11,063
長期貸付金	681	1,016
その他	5,407	4,673
貸倒引当金	△207	△197
投資その他の資産合計	13,841	16,555
固定資産合計	22,024	25,064
資産合計	80,893	110,751
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,402	38,328
短期借入金	6,549	4,000
1年内返済予定の長期借入金	2,794	2,550
未払法人税等	1,358	835
賞与引当金	273	142
役員賞与引当金	159	-
その他	6,952	6,611
流動負債合計	30,489	52,467
固定負債		
長期借入金	3,994	4,351
退職給付に係る負債	862	901
資産除去債務	1,213	1,123
その他	2,515	2,521
固定負債合計	8,585	8,898
負債合計	39,075	61,366

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,948	7,948
資本剰余金	7,390	7,390
利益剰余金	24,217	31,782
自己株式	△1,644	△1,632
株主資本合計	37,912	45,488
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,194	28
為替換算調整勘定	1	1
退職給付に係る調整累計額	12	6
その他の包括利益累計額合計	1,208	36
新株予約権	45	160
非支配株主持分	2,651	3,699
純資産合計	41,817	49,385
負債純資産合計	80,893	110,751

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	89,607	123,206
売上原価	70,508	100,204
売上総利益	19,099	23,001
販売費及び一般管理費	9,622	10,681
営業利益	9,476	12,320
営業外収益		
受取利息	2	9
受取配当金	5	128
仕入割引	129	21
持分法による投資利益	90	912
出資分配金	15	14
その他	128	141
営業外収益合計	372	1,228
営業外費用		
支払利息	62	42
貸倒引当金繰入額	6	-
その他	32	50
営業外費用合計	100	93
経常利益	9,749	13,456
特別利益		
固定資産売却益	1	3
特別利益合計	1	3
特別損失		
固定資産除却損	4	9
減損損失	-	13
会員権売却損	7	-
その他	0	-
特別損失合計	11	23
税金等調整前四半期純利益	9,738	13,436
法人税等	2,401	2,851
四半期純利益	7,336	10,584
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,689	1,052
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,646	9,532

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	7,336	10,584
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	179	△1,166
為替換算調整勘定	△0	△0
退職給付に係る調整額	△2	△4
持分法適用会社に対する持分相当額	-	0
その他の包括利益合計	176	△1,170
四半期包括利益	7,513	9,413
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,825	8,361
非支配株主に係る四半期包括利益	1,687	1,052

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	9,738	13,436
減価償却費	564	752
のれん償却額	189	212
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△53	△22
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△136	△130
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△46	△159
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	22	33
受取利息及び受取配当金	△7	△138
持分法による投資損益 (△は益)	△90	△912
支払利息	62	42
出資金償却	550	491
売上債権の増減額 (△は増加)	△23,934	△27,680
棚卸資産の増減額 (△は増加)	120	△4,055
未収入金の増減額 (△は増加)	△4,734	△4,800
仕入債務の増減額 (△は減少)	20,072	25,947
有償支給取引に係る負債の増減額 (△は減少)	△561	547
未払又は未収消費税等の増減額	544	△894
その他	5	681
小計	2,306	3,351
利息及び配当金の受取額	7	197
利息の支払額	△62	△42
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△1,183	△2,631
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,068	874
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△657	△1,430
有形固定資産の売却による収入	4	3
無形固定資産の取得による支出	△185	△194
投資有価証券の取得による支出	△1,167	△421
投資有価証券の売却による収入	45	52
関係会社株式の取得による支出	-	△254
持分法適用関連会社株式取得による支出	-	△3,167
出資金の払込による支出	△764	-
貸付けによる支出	△333	△340
貸付金の回収による収入	16	5
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	3	-
その他	△12	67
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,050	△5,678

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	349	△2,549
長期借入れによる収入	-	2,950
長期借入金の返済による支出	△3,762	△2,836
ストックオプションの行使による収入	82	5
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△645	△1,959
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△306	-
その他	△23	△23
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,306	△4,412
現金及び現金同等物に係る換算差額		
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△6,288	△9,217
現金及び現金同等物の期首残高	32,304	36,497
現金及び現金同等物の四半期末残高	26,015	27,280

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	コンテンツ &デジタル 事業	P S 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	10,278	77,616	87,895	1,712	89,607	—	89,607
セグメント間の内部売上 高又は振替高	386	2	389	8	397	△397	—
計	10,665	77,619	88,284	1,721	90,005	△397	89,607
セグメント利益	3,805	6,062	9,868	56	9,925	△448	9,476

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フィットネス事業等を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額△448百万円には、セグメント間取引消去△58百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△389百万円が含まれています。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	コンテンツ &デジタル 事業	P S 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	11,273	110,736	122,009	1,196	123,206	—	123,206
セグメント間の内部売上 高又は振替高	193	215	409	7	417	△417	—
計	11,466	110,952	122,419	1,204	123,623	△417	123,206
セグメント利益	3,000	10,978	13,978	17	13,996	△1,675	12,320

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、フィットネス事業等を含んでいます。

2. セグメント利益の調整額△1,675百万円には、セグメント間取引消去△29百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,646百万円が含まれています。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。